

契約図書

上砂見地区急傾斜地崩壊対策工事

工 事 概 要 書

- 1 工 事 名 上砂見地区急傾斜地崩壊対策工事
- 2 工 事 場 所 鳥取市上砂見
- 3 工 期 184日
- 4 事 業 目 的
- 5 工 事 内 容 砂防土工 一式
吹付棒工 (500-2500×2500) L=107m
グラウンドアンカー工 N=22本

位置図

業務位置：鳥取県鳥取市上砂見地内



現場説明書

特記事項 1

令和 6 年 4 月 1 日以降調達公告適用

工 程	<p>① (他工事等との調整) _____ については、_____ と関連するので相互の連絡調整を密にすること。</p> <p>② (部分完成、着工保留) _____ については、_____ まで _____ [すること、しないこと]。</p> <p>③ (施工時間) 本工事の施工時間帯は、昼間施工 (8:00~17:00) を見込んでいる。 _____ の施工時間は、_____ : _____ ~ _____ : _____ とする。</p> <p>④ (余裕期間設定工事) 本工事は、鳥取県余裕期間設定工事に係る実施要領 (平成28年6月9日付第201600036328号県土整備部長通知) の対象工事であり、工事開始日、前払金の請求、技術者の配置及びその他の取扱いについては、同要領の規定による。 工期については、調達公告のとおりとする。</p> <p>⑤ (鋼材の調達の遅れによる工期の延長) この工事の工期には、鋼材調達期間として、_____ ヶ月を見込んでいるが、受注者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。</p> <p>⑥ (週休 2 日工事) 本工事は、鳥取県県土整備部週休 2 日工事試行実施要領 (平成30年3月12日付第201700297117号県土整備部長通知) の対象工事である。 https://www.pref.tottori.lg.jp/277262.htm に掲載された本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い週休 2 日工事を実施すること。</p>																																
用地 関係	<p>① (用地、物件等未処理) 本工事区間の _____ には _____ があるので、監督員と打合せのうえ施工を行うこと。 なお、_____ 項 _____ の予定である。</p>																																
支 障 物 件	<p>① (埋設物等の事前調査) 工事に係る地下埋設物等の事前調査については、〔未調査・(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他 _____) について調査済み〕である。 事前調査済みのうち本工事区域内で埋設が確認されている地下埋設物等は、(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他 _____) であるため、各管理者の立会を求めて埋設位置等の確認を行うこと。 その他埋設が想定される未調査の埋設物については事前に確認を行うとともに、管理者不明の埋設物等が確認された場合は、監督員に報告すること。</p> <p>② (支障物件) _____ の施工に当って、_____ が支障となっているが、_____ までに移設が完了する見込である。 予定どおり処理できなかった場合は別途協議する。</p> <p>③ (立木の置き場所) 工事用地内の立木は伐採し、_____ に置くこと。</p>																																
公 害 対 策	<p>① (低騒音型・低振動型建設機械) 本工事のうち施工箇所：_____ については、特に生活環境を保全する必要があるため、下記工種の施工に当たっては、低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定 (国土交通省告示、平成13年 4 月 9 日改正) に基づき指定された建設機械を使用するものとする。 該当工種：_____、施工機械：_____</p>																																
安 全 対 策	<p>① (交通安全施設等) 一般交通等に支障を及ぼさないよう十分注意して施工すること。なお、交通整理の配置人員及び必要日数として、以下のとおり見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">交通誘導員 A</td> <td style="width: 10%;">_____ 人</td> <td style="width: 10%;">交替要員</td> <td style="width: 10%;">_____ 人</td> <td style="width: 10%;">1 日あたり合計</td> <td style="width: 10%;">_____ 人</td> <td style="width: 10%;">配置日数</td> <td style="width: 10%;">_____ 日</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">工事全体合計</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">_____ 人・日</td> </tr> <tr> <td>交通誘導員 B</td> <td>1 人</td> <td>交替要員</td> <td>_____ 人</td> <td>1 日あたり合計</td> <td>1 人</td> <td>配置日数</td> <td>5 日</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">工事全体合計</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">5 人・日</td> </tr> </table> <p>警備業法に規定する警備員を配置する場合においては、交通誘導員 A、交通誘導員 B の定義は以下のとおりとする。</p> <p>交通誘導員 A とは、警備業法第 2 条第 4 項に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第 1 条第 4 号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る 1 級検定合格警備員又は 2 級検定合格警備員をいう。</p> <p>また、交通誘導員 B とは、警備業法第 2 条第 3 項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員 A 以外の交通の誘導に従事する者をいう。</p> <p>なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第 14 条で規定する以外の者とし、安全教育、安全訓練等を十分行うこと。この場合は交通誘導員 B を配置していることとみなす。</p>	交通誘導員 A	_____ 人	交替要員	_____ 人	1 日あたり合計	_____ 人	配置日数	_____ 日			工事全体合計				_____ 人・日		交通誘導員 B	1 人	交替要員	_____ 人	1 日あたり合計	1 人	配置日数	5 日			工事全体合計				5 人・日	
交通誘導員 A	_____ 人	交替要員	_____ 人	1 日あたり合計	_____ 人	配置日数	_____ 日																										
		工事全体合計				_____ 人・日																											
交通誘導員 B	1 人	交替要員	_____ 人	1 日あたり合計	1 人	配置日数	5 日																										
		工事全体合計				5 人・日																											

現場説明書

特記事項 2

濁水処理	<p>① (濁水処理)</p> <p>工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書によるものとする。なお、これにより難しい場合は別途協議すること。</p> <p>また、舗装の切断作業時に発生する排水の処理についても、舗装の切断作業時に発生する排水の処理について(平成24年3月27日付第201100201443号水・大気環境課長通知)(https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1141806/120327hosousetudan.pdf)に基づいて適正に処理すること。</p>
建設副産物の処理	<p>【建設発生土(処理)】</p> <p>建設発生土は、再生資源の利用の促進に係る特記仕様書 (https://www.pref.tottori.lg.jp/312034.htm) により適切に対応すること。</p> <p>① (他工事等流用)</p> <p>建設発生土は <u> </u> 市・町・村 <u> </u> 地内の <u> </u> 工事現場に運搬(片道運搬距離 <u> </u> km) するものとする。</p> <p>② (建設技術センター)</p> <p>建設発生土は <u> </u> 市・町・村 <u> </u> 地内のセンター事業所に運搬(片道運搬距離 <u> </u> km) するものとする。なお、処理費として1m³当り <u> </u> 円をセンターに支払うこと。センター事業所へ搬出する土砂の土質は、各事業所が指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m²以上)</p> <p>② (民間残土受入地)</p> <p>建設発生土は <u>鳥取</u> 市・町・村 <u>長谷</u> 地内の <u>(株)大谷組</u> に運搬(片道運搬距離 <u>7.5</u> km) するものとする。なお、処理費として1m³当り <u>1,400</u> 円を <u>事業者</u> に支払うこと。民間残土受入地へ搬出する土砂の土質は、各受入地が指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m²以上)</p> <p>④ (土質改良プラント)</p> <p>建設発生土は <u> </u> 市・町・村 <u> </u> 地内の <u> </u> に運搬(片道運搬距離 <u> </u> km) するものとする。なお、処理費として1m³当り <u> </u> 円を <u> </u> に支払うこと。土質改良プラントへ搬出する土砂の土質は、各プラントが指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m²以上)</p> <p>【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材(処理)】</p> <p>① (分別解体等)</p> <p>コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。</p> <p style="margin-left: 20px;">コンクリート塊 1m³当り <u> </u> 円</p> <p style="margin-left: 20px;">アスファルト塊 1m³当り <u> </u> 円</p> <p style="margin-left: 20px;">建設発生木材 1m³当り <u> </u> 円</p> <p>② (他工事等流用)</p> <p>[Co雑割材・] は、<u> </u> 市・町・村 <u> </u> 地内 <u> </u> 工事で使用するものとする。</p> <p>③ (バイオマス発電燃料加工施設への搬出)</p> <p>建設発生木材は <u>岩美</u> 市・町・村 <u>浦富</u> 地内の <u>吾妻商事(有)</u> のバイオマス発電燃料加工施設への搬出(片道運搬距離 <u>30.7</u> km) を想定し、1t当り(幹)-<u>4,000</u>円、(枝葉)-<u>2,000</u>円を見込んでいる。搬出先を変更する場合には、理由を付して協議を行うこと。</p> <p>なお、公共工事で伐採する支障木は、一般木質バイオマスとして区分される。一般木質バイオマスであることは、立木の所有者(鳥取県)自らにより由来を証明することを基本とするが、伐採・運搬を行う者が由来を証明する場合は、鳥取県森林組合が登録・審査した認定団体でなければならない。当該工事は、[所有者(鳥取県)・伐採・運搬を行う者]により由来の証明を行うこととしているため、着手にあたっては事前に監督員に確認すること。</p> <p>④ (木材市場等へ売却)</p> <p>建設発生木材は <u> </u> 市・町・村 <u> </u> 地内の <u> </u> への搬出(片道運搬距離 <u> </u> km) を想定し <u> </u> 円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合の理由を付して協議すること。</p>

⑤ (再資源化施設へ搬出)

コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設等への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとに manifests を発行するものとする。

なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。

(施設の名称) コンクリート塊 市・町・村 地内の
 (受入れ費用) (運搬距離 km)、費用 1 t 当り 円
アスファルト塊 市・町・村 地内の
(運搬距離 km)、費用 1 t 当り 円
 建設発生木材 鳥取市・町・村 古海 地内の (有) マルヤス産業
(運搬距離 14.4 /km)、費用 1 m³ 当り 8,000 円
 その他 () 市・町・村 地内の
(運搬距離 km)、費用 1 t 当り 円

(受入れ時間帯) 8時～17時 (平日)

(受入れ条件) ア 路盤材、土砂、金属片等が混入していないこと。

イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。

ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径 cm 以下、長さ m 以下であること。

エ 2次公害発生の恐れのある物質 (廃油等) を含まないこと。

⑥ (最終処理等)

市・町・村 地内の産業廃棄物処理場への搬出 (片道運搬距離 km) を想定し、その費用として1 t 当り 円を見込んでいる。

これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。

⑦ (産業廃棄物の処理に係る税)


産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を、円見込んでいる。

⑧ (伐木工の数量)

伐木工は伐木工歩掛 (平成27年8月12日付第201500076595号鳥取県土整備部技術企画課長通知) に基づき参考数量で算出しているの、実績について見積もり等により監督員に協議を行うこと。

⑨ (建設発生木材の出来形数量)

建設発生木材の運搬量、搬出量は出来形数量に応じて設計変更を行う。そのため、次のとおり数量管理を行うこと。

工種	項目	規格	摘要
建設発生木材 運搬量	現場において運搬車の計測を行うこと。 平均的な1断面を計測。計測に当たっては、頂部に最低2箇所の折れ点を設けること。 断面積に荷台の延長を乗じて体積を算定する。	運搬車全数の測定を行うこと。また、10台に1台の割合で写真管理を行うこと。ただし、搬出台数が10台に満たない場合は、2台以上写真管理を行うこと。 なお、manifests で運搬量 (体積 (空m ³)) が確認出来る場合は、計測、写真管理は不要とする。	
建設発生木材 搬出量	manifests 又は伝票管理を行うこと。	運搬車全数の管理を行うこと。	伝票は処分業者が発行したものでなければならない。

⑩ (manifests)

産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託するときは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき manifests を作成すること。ただし、一般廃棄物や有価物は不要である。

建設副産物の処理

現場説明書

特記事項 4

建設副産物の使用

- ① (建設発生土の使用)
~~_____ 工事から〔本工事運搬・相手方運搬〕の建設発生土を受入れ、使用箇所：_____に使用する。
 なお、建設発生土は、再生資源の利用の促進に係る特記仕様書
 (https://www.pref.tottori.lg.jp/312034.htm) により適切に対応すること。~~
- ② (再生資材の使用)
~~ア Co雑割材は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____に使用する。
 イ アスファルト・コンクリート切削殻等は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____に使用する。
 ウ 再生クラッシュラン〔規格：Re-_____〕は、使用箇所：_____に使用する。
 エ 再生コンクリート砂〔規格：RS-_____〕は、使用箇所：_____に使用する。
 オ 再生加熱アスファルト混合物〔規格：_____〕は、使用箇所：_____に使用する。
 カ その他再生資材〔資材名：_____〕〔規格：_____〕は、使用箇所：_____に使用する。
 キ 本工事において、再生クラッシュランの使用は上記ウに記載のものを想定している。当該砕石について、受注者が再生資源化施設側と供給状況等について協議し、再資源化施設側から書面により供給の確保ができない旨の回答があった場合には、他の再生砕石を使用することとし、設計変更の対象とする。その上で他の再生砕石の確保も難しいと判断された場合には、新材を使用することとし、設計変更の対象とする。
 ク 本工事において、粒度調整砕石の使用は新材を想定している。ただし、受注者が再生材の使用を希望する場合には、受注者において供給状況を確認し、再生材の使用について協議することとし、設計変更の対象とする。~~

工事用道路

- ① (農地の一時転用について)
 本工事を施工するために必要な仮設道路等を農地に設置する目的で、受注者が農地を借地する場合は、事前に所轄農業委員会と協議を行い、農地法第5条第1項に基づく農地一時転用の許可を得ること。
 【令和5年4月1日時点で、前工事等の請負業者が一時転用している農地を継続して利用する場合は、以下も記載する。(該当がなければ記載を削除)】
~~受注者は、前工事等の請負業者が農地一時転用している農地を継続して利用する場合、速やかに変更報告書を作成の上、所轄農業委員会へ提出し、工事完了後はその旨を連絡すること。~~
- ② (農地の賃貸借)
~~ア _____の用途に使用するため、_____市・町・村 _____番地を賃貸借すること。
 イ 土地賃貸借契約書に「鳥取県との建設工事請負契約に基づき、土地の貸借権は鳥取県が有することとし、原状復旧の責は鳥取県が負い、受注者がその任に当たるものとする。」を明記すること。
 ウ 賃貸人に賃貸借料を支払うこと。
 エ 工事完了後、速やかに農地の原状に復旧すること。
 オ イにより契約した地番における、農地一時転用許可は不要である。~~

その他

- ① (自社施工)
 本工事においては、グラウンドアンカー 工(~~_____工を除く~~)のうち少なくとも_____千円までの部分は、鳥取県県土整備部自社施工対象工事適正実施要領に定めるところにより自社施工しなければならない。
 ※該当する細別(レベル4)を記載する。
- ② (工事名称)
 工事標示板に記載する名称は、契約工事名とする。
 なお、工事標示板には、原則として県産木材を使用すること。また、その他の保安施設等についても積極的に県産木材を使用すること。

③ (景観評価)

ア 本工事は、鳥取県公共事業景観形成指針に基づく、景観評価対象事業 [であるではない]。
イ 景観評価対象事業の場合、施工にあたっては設計図書によるほか、必要に応じて監督員と協議すること。

④ (工事成績評定)

本工事は、工事成績評定要領 (以下「評定要領」という。) に基づく工事成績評定の対象と [するしない]。工事成績評定の対象外とするのは以下の [ア・イ・ウ・エ・オ] に該当するため。

- ア 請負対象設計金額 (請負契約の対象となる部分の設計金額をいい、請負契約締結後に請負対象設計金額を変更した場合は、当初請負対象設計金額とする。以下同じ。) が、500万円未満の一般土木工事及び250万円未満の建築・設備工事
- イ 鳥取県の管理する道路 (道路法 (昭和27年法律第180号) 第2条第1項に規定する道路に限る。) ・河川・湖沼・港湾を維持し、修繕し、又は管理 (公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法 (昭和26年法律第97号) 第2条第2項に規定する災害復旧事業として行われるものを除く。) することを目的として発注された工事 (年間維持、港湾浚渫、河川掘削、伐開、塵芥処理工事)
- ウ 災害等の初期活動で緊急かつ迅速な対応が不可欠である緊急応急工事
- エ 機器の納品、部品取替等の建設工事 (融雪施設点検補修、道路照明灯点検補修、標識灯設置工事等)
- オ 工事目的物を伴わない建設工事 (旧橋撤去、残土撤去・運搬工事等)

⑤ (監督体制)

本工事は監督体制は [一般重点] 監督とする。
重点監督の工種は _____ とし、その他の工種は一般監督とする。
なお、鳥取県建設工事低入札価格調査制度対象工事となった場合は、別途通知する。

⑥ (三者協議)

本工事は、(対象工事の区分を記載) _____ 工事であり、工事着工までに、施工条件及び施工の留意点等を確認するため、発注者並びに当該工事の測量等業務受注者及び施工受注者の三者で協議するものとする。(重点監督工事等に適用)

⑦ (技能士常駐)

本工事には、下記のとおり鳥取県土木工事共通仕様書特記事項に基づく技能士常駐対象工種が含まれており、該当工種の作業期間は、技能士が工事現場に常駐しなければならない。

- ア 技能士種別: _____ 技能士、該当工種: _____ 工、特記事項根拠: _____ 頁
- イ 技能士種別: _____ 技能士、該当工種: _____ 工、特記事項根拠: _____ 頁
- ウ 技能士種別: _____ 技能士、該当工種: _____ 工、特記事項根拠: _____ 頁

⑧ (電子納品)

情報共有システムを利用する工事は、原則として工事完成図書を電子納品すること。ただし、止むを得ない事情がある場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。
情報共有システムを利用しない工事であっても、受注者が電子納品を希望する場合は、監督員と協議の上、電子納品対象工事とする。
電子納品に当たっては、<https://www.pref.tottori.lg.jp/171188.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドライン」(以下「ガイドライン」という。) に従い適正に納品すること。

⑨ (情報共有システム)

予定価格4千万円以上の工事は、原則として情報共有システム (以下「システム」という。) を利用することとする。ただし、止むを得ない事情等によりシステムを利用できない場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。
予定価格4千万円未満の工事であっても、受注者がシステムの利用を希望する場合は、監督員と協議の上、システムを利用することができる。
システム利用に当たっては、ガイドラインに従い適正に実施すること。

⑩ (寒中コンクリート)

本工事は、寒中コンクリートとして施工を行わなければならない期間があるので、適正に実施すること。なお、寒中コンクリートの養生費用については、「寒中コンクリートの養生費用について」(平成23年12月7日付第201100123529号県土整備部長通知) に基づいて処理することとし、設計変更の対象とする。

⑪ (建設機械の賃料の採用単価)

ア 建設機械の賃料について、ラフテレーンクレーン及び高所作業車以外の建設機械は長期割引単価を標準としている。
通常単価を採用した建設機械 [無し・有り _____]
イ ラフテレーンクレーン及び高所作業車について、1ヶ月以上の長期利用に当たるものは長期割引単価を採用し、1ヶ月未満の利用に当たるものは通常単価を採用している。
本工事の _____ 工で使用を想定しているラフテレーンクレーン (規格 4.9t、25 t 吊) の採用単価は (長期割引単価・通常単価) (建設物価 4 月号、809 頁) を採用し、
本工事の _____ 工で使用を想定している高所作業車 (規格 _____) の採用単価は (長期割引単価・通常単価) (建設物価 _____ 月号、_____ 頁) を採用している。

そ
の
他

現場説明書

特記事項 6

⑫ (現場環境改善)

本工事は、現場環境改善(率計上分)実施対象工事と【するしない】。
 下表の内容のうち原則として各費目(仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携)ごとに1実施内容ずつ(いずれか1項目のみ2実施内容)の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。

実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。

地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容(目的に資するものであること)について監督員の確認を受けること。

1 内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。

計上費目	実施内容
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備, 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設, 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実, 6. 環境負荷の低減
営繕関係	1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舍の快適化 3. デザインボックス(交通誘警備員待機室). 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報機等) 3. 避暑(熱中症予防)・防寒対策
地域連携	1. 完成予想図, 2. 工法説明図, 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーションセンター)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献
防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)	1. 防災訓練(地震・台風等の自然災害に対する訓練)

その他

⑬ (熱中症対策)

熱中症対策について <https://www.pref.tottori.lg.jp/291941.htm> に掲載の熱中症予防対策資料を参考に熱中症予防対策を実施すること。

また、気象庁から高温注意報(最高気温35℃以上が予想される場合)が発表された日においては、作業の中断、作業時間の短縮を行うか、十分な水分、塩分の摂取のほか休憩場所の整備及び十分な休憩時間を確保するなどの熱中症予防対策を確実に実施したうえで作業を行うこと。

⑭ (現場管理費補正)

本工事は、熱中症対策に資する現場管理費補正の対象工事とする。熱中症対策に資する現場管理費補正の適用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/285759.htm> に掲載の熱中症対策に資する現場管理費補正の試行要領に基づき、工事着手前に提出する施工計画書に、工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載すること。計測結果は施工計画書に基づき、計測結果の資料を工期末の14日前までに提出すること。

~~⑮ (日本芝生産地への配慮)~~

~~日本芝の生産に配慮した植生工について(令和2年2月27日付第201900299342号県土整備部長通知)(<https://www.pref.tottori.lg.jp/290178.htm>)に基づき、日本芝を生産するほ場と、その前後も含めたほ場に隣接する法面においては、植生工にバミューダグラスの使用を禁止する。ア(張芝工・筋芝工)は、日本芝の(野芝・高麗芝)を使用すること。~~

~~イ(植生基材吹付工・客土吹付工・種子散布工・枠内吹付工)に使用する種子に「バミューダグラス」は使用しないこと。配合種子は監督員と協議のうえ決定すること。~~

~~ウ(わら芝工・植生シート工・植生マット工)に使用する種子に「バミューダグラス」は使用しないこと。バミューダグラスの代替えの種子として○○を使用し、材料費として1㎡当り___円を見込んでいる。~~

- ⑯ (ICT 活用工事[受注者希望型(LightICT を含む)])
 本工事は、受注者希望型(LightICT を含む)の対象工事であるので、最新の「ICT 活用工事特記仕様書(受注者希望型)」によること。
 仕様書の改定状況は <https://www.pref.tottori.lg.jp/269460.htm> を参照すること。
- ~~⑰ (土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事)
 本工事は、労働安全衛生規則第2編第12章「土石流による危険の防止」に定める、土石流が発生する恐れのある現場において行う工事である。
 安全対策について、<https://www.pref.tottori.lg.jp/295476.htm>に掲載の「土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事における安全対策について」に基づいて実施すること。~~
- ~~⑱ (標示板の設置)
 本工事は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく工事であり、標示板の工事種類について「国土強靱化対策工事(5か年加速化対策)」と標記すること。
 標示板の記載及び記載内容については、道路・河川工事現場における標示施設の設置の徹底について(令和3年6月1日付け 国土交通省大臣官房技術調査課建設システム管理企画室長 事務連絡)を参考にすること。~~
- ⑲ (CCUS 活用推奨工事[受注者希望型]) 【災害復旧工事、受託工事は対象外(当該項目を削除する)】
 本工事は、受注者希望型の対象工事である。CCUS の活用を希望する場合は、最新の「鳥取県建設キャリアアップシステム活用推奨工事(受注者希望型)特記仕様書」によること。
 仕様書の改定状況は <https://www.pref.tottori.lg.jp/291820.htm> を参照すること。
- ⑳ (遠隔臨場)
 本工事は、遠隔臨場の対象工事である。遠隔臨場の活用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/307254.htm>に掲載された本工事調達告示日時点で最新の「鳥取県建設工事・測量等業務の遠隔臨場に関する実施要領」によること。
- ㉑ (施工管理システム)
 本工事は、施工管理システムの利用可能工事(試行)である。施工管理システムの活用を希望する場合は、事前に監督員と協議を行うこと。なお、利用に関するアンケート調査に協力すること。対象とする施工管理システムは以下のホームページに掲載されたものである。
<https://www.pref.tottori.lg.jp/310672.htm>
- ㉒ (工事用道路の借地)
 作業ヤード(仮置場)として使用予定の土地(鳥取市上砂見689番地)は、発注者が予め借地を行っている。借地の範囲については事前に監督員に確認すること。
- ㉓ (グラウンドアンカー工における引抜試験)
 グラウンドアンカー工の施工前には引抜試験を実施することとし、設計周面摩擦抵抗力が妥当であることを確認すること。
 ・設計周面摩擦力 $\tau = 1.0\text{N/mm}^2$
- ㉔ (グラウンドアンカー工における設計アンカー力及び傾角)
 グラウンドアンカー工の設計アンカー力及び傾角は以下のとおりである。
 ・設計アンカー力 $T_d = 393.01\text{kN/本}$
 ・傾角 = 30°
- ㉕ (法面工の施工について)
 法面工の施工にあたっては逆巻施工とし、最上段のグラウンドアンカーから順次、1段ずつ施工すること。

その他

現場説明書(1/2)

特記事項 鳥取県土
(R3.4.1改訂)

千代川水系における濁水防止対策

1 本工事は千代川水系内における工事であり、濁水防止対策等については、あらかじめ千代川漁業対策協議会事業調整会議において調整している。工事実施にあたっては、「千代川水系における濁水防止対策申し合わせ (H27.7.28 千代川漁業対策協議会)」に基づき以下の事項を遵守して、濁水防止に努めること。

また、「具体的で詳細な濁水対策」を施工計画書に明記するとともに、実際に作業を行うオペレーターをはじめとする全ての現場作業員に対して、新規入場者教育や毎日の朝礼等の機会に「具体的で詳細な濁水対策の行い方」を指導するなど、積極的な濁水対策を徹底すること。

ア 受注者は、濁水防止（仮設足場等の設置を含む）に最善の注意を払い工事を行うこと。施工にあたっては、「タ 留意事項」を参照し、濁水防止対策を徹底すること。

イ 濁水防止等の対策は、千代川漁業対策協議会で協議の上合意されたものであり、濁水防止対策の変更及び工期延長の恐れが生じた場合は、できる限り早い時期に監督員に報告し、指示を受けること。

ウ 濁水防止施設等が設置された時点で、監督員の確認を受けること。また、撤去時においては残骸等がないようにすること。

エ 濁水を生じる恐れのある仮締切の設置・撤去、瀬替や川替など河床掘削時は、監督員の立会を求めること。必要に応じて千代川漁業協同組合と協議すること。

オ 千代川漁業対策協議会において現地立会が必要と認められた箇所については、千代川漁業協同組合と発注者で現地確認を行い、問題が認められた場合には双方協議することとしているので、工事着手前には監督員に確認すること。

カ 大型土のうを設置する場合の番号の色は（赤）とする。大型土のうは、設置及び撤去後の数量が分かるように管理すること。

キ 千代川水系については、毎年2月下旬～3月中旬にはやまめ成魚、4月下旬～5月中旬には鮎苗の放流、7月上旬には、やまめ、いわなの稚魚の放流が予定されており、放流日（1日程度）の前後の期間（10日程度）は、濁水等を流出させる工事は実施しないこと。やむを得ない事情により作業を行う場合は、濁水防止対策について千代川漁業協同組合と連絡調整を行ったうえで細心の注意を払い作業を行うこと。なお、稚魚放流等の詳細な日程については、監督員に確認すること。

タ 留意事項

河床掘削関係	(1) 河床掘削する際は、額縁（がくぶち）掘削とすること。ただし、川幅が狭い等、額縁掘削ができない場合は、沈砂池を設けるなどの濁水対策を講じたうえで全面掘削を行うこと。 (2) 発生した玉石（概ね20cm以上）は、残土処分しないで現地又は同一河川に戻すこととし、河床（水のあるところ）に並べるか、護岸の根に寄せ石を行い、魚の生息・休憩場所の保全に努めること。
石積工関係	(1) 石積工の石材を現地採取する場合は、その代替となる石材を近くの中州や瀬替えにより掘り起こすなどして調達し、河床表面に敷き並べること。
仮設道路関係	(1) 仮設道路を新設する場合、道路法面や路面から流出する濁水について対策を構想すること。
土のう関係	(1) 河川内で土のうを使用する場合は、土のうに番号（赤色）を打ち、設置時及び撤去時に数量管理（写真管理）を行い、全数撤去を確認すること。また、流出防止のため、必要に応じてロープ等で連結すること。 (2) 土のうが流出した場合は、下流を探し全数回収するとともに、全数回収できたことを証明する資料を監督員に提出すること。
沈砂池関係	(1) 原則、沈砂池の底にブルーシートは敷かないこと。 (2) 沈砂池に堆積したドロは、定期的に除去すること。 (3) 高水敷が広い場合は、沈砂池は高水敷を掘削する方法を検討すること。 (4) 沈砂池は、濁りの程度や湧水量に見合った大きさ、基数（連数）とすること。効果が不十分な場合は、増設等を行うこと。 (5) ノッチタンクについても、効果が不十分な場合は、容量を大きくする又は基数を増やす等、効果を見ながら対応すること。

2 本工事は、河床の改変を伴う工事であり、以下のとおり千代川漁協による完成前確認を行うこととしているので、検査希望日を1週間前までに監督員へ連絡すること。

ア 確認時期

・ 工事完了前の河床整理が概ね完了した時点。ただし、完成確認時の指摘等に対応できるようバックホウ等が現地にある時期とすること。

イ 確認事項

<河床状況>

・ 玉石をみお筋に並べたり、水中の護岸基礎部の保護を兼ねた寄せ石を行う等、魚類への配慮がなされているか。

・ 平滑な河床にせず、みお筋を復元する等、着手前の河床が復元されているか。

<仮設材（大型土のう等）等の撤去>

・ 仮設材（大型土のう等）が全て撤去されているか。

・ 設置時及び撤去時数量の管理資料（赤色番号入り空袋写真等）

<工事資材や発生したゴミ等の撤去>

・ 工事資材やゴミ等が河川内に残されていないか。

現場説明書(2/2)

特記事項 鳥取県土
(R3.4.1改訂)

事故防止対策	公益占用物件等への	<ul style="list-style-type: none"> ・受注者は、<u>鳥取県土木工事共通仕様書及び鳥取県土木工事共通仕様書特記事項に基づき、公益占用物件にかかる事前調査・所有者等との調整・必要に応じて対策を行い、事故防止を確実に実施すること。</u> <p>※工業用水道管については、鳥取県企業局のホームページで概略位置を確認のうえ、必要に応じて管理者に協議を行うこと。(URL : https://www.pref.tottori.lg.jp/205136.htm)</p>
モニタリング調査等	モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・当工事はモニタリング調査(施工形態動向調査)対象工事(工種:)であるため、別途監督員から渡される調査票に記入の上、工事完成後すみやかに監督員に提出すること。 ・当工事は施工合理化調査対象工事(工種:)であるため、別途監督員から渡される調査票に記入の上、工事完成後すみやかに監督員に提出すること。
針道用	環境配慮指	<ul style="list-style-type: none"> ・当工事は「鳥取県公共事業環境配慮指針」適用工事であるため、別紙環境配慮チェックリストの「検討必要」事項を配慮するよう努めること。配慮した場合、環境配慮リストの「配慮した」欄をチェックし、配慮できなかった場合はその理由を附し、工事完成後すみやかに監督員に提出すること。
実態調査	建設副産物	<ul style="list-style-type: none"> ・当工事は「建設副産物実態調査」対象工事であるため、別途監督員から渡される調査票等に記載の上、工事完成後すみやかに監督員に提出すること。
その他		<ol style="list-style-type: none"> 1 工事完成通知書の提出に先立って、県は鳥取県土木工事共通仕様書(以下「共通仕様書」という。)第3編 1-1-5に基づき実施する段階確認の最終項目として「臨場による現地完成確認」を行う。 2 請負業者は共通仕様書第3編 1-1-5に基づき、県に提出する段階確認報告書の段階確認項目に「臨場による現地完成確認」を明記すること。 3 現場説明書の要領等の最終改正は、鳥取県のホームページ「とりネット」に掲載してありますので確認下さい。

※明示する事項を 部分に記入または追記し、不要部分は○で削除して使用すること。

法令等による規制状況調査書

工事名	上砂見地区急傾斜地崩壊対策工事		工事場所	鳥取市上砂見				
法令等	関係条文(必要手続き等)	手続の要否	申請先	申請等年月日	許可等年月日	許可等期間	許可書等写し添付	備考
道路法	□24条(道路管理者以外の者の行う工事の承認申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	協議中
	□32条(道路の占用の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□95条の2(公安委員会との調整)	要・否					<input type="checkbox"/>	
河川法	□20条(河川管理者以外の者の行う工事の承認申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□24条(河川の占用の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□26条(工作物の新築等の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□27条(土地の掘削等の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県砂防指定地等管理条例	□4条1項(砂防指定地内における行為、占用の協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
地すべり等防止法	□18条(地すべり防止区域における行為の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
急傾斜地の崩壊による災害防止に関する法律	□7条4項(急傾斜地崩壊危険区域内における行為の協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
農地法	□4条1項(転用の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
森林法	□10条の8(伐採及び伐採後の造林の届出等)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□27条(保安林の指定解除申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□34条(保安林における立木伐採の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県漁業調整規則	□48条(漁場内の岩礁破砕等の許可)	要・否					<input type="checkbox"/>	
文化財保護法	□94条(埋蔵文化財包蔵地の発掘の通知)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□125条1項(史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
自然公園法	□20条3項(特別地域における行為の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□21条3項(特別保護地区における行為の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□33条1項(普通地域における行為の届出)	要・否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県立自然公園条例	□16条1項(特別地域における行為の協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□16条2項(普通地域における行為の通知)	要・否					<input type="checkbox"/>	
自然環境保全法	□25条4項(特別地区における行為の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□27条3項(海域特別地区における行為の許可申請)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□28条1項(普通地区における行為の届出)	要・否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県自然環境保全条例	□20条1項(特別地区における行為の協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□20条2項(普通地区における行為の通知)	要・否					<input type="checkbox"/>	
採石法	□42条の2(国等に対する適用)	要・否					<input type="checkbox"/>	
砂利採取法	□43条(国等に対する適用)	要・否					<input type="checkbox"/>	
土壌汚染対策法	□4条1項(土壌汚染のおそれがある土地の形質変更の届)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	■ 届出不要		①掘削面積	264m ²	②盛土面積	m ²	合計 (①+②)	
※掘削、盛土面積は、事業箇所全体における面積を記入すること。(工事毎の面積ではない) ※掘削及び盛土部分の合計の面積が3,000m ² 以上となる場合は届出が必要。ただし、盛土のみの場合は届出不要。								
景観法	□16条5項(景観計画区域内における行為着手前の通知)	要・否					<input type="checkbox"/>	
都市計画法	□34条の2(開発行為の協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
水路業務法	□6条(海上保安庁以外の者が実施する水路測量)	要・否					<input type="checkbox"/>	
	□19条1項(水路関係事項の通報)	要・否					<input type="checkbox"/>	
漁業対策協議会規約	□(事業調整会議等での協議)	要・否					<input type="checkbox"/>	
その他	■建設リサイクル	要・否					<input type="checkbox"/>	契約後通知

注) 1 許可(承認)書の写しを添付すること。

2 手続の要否について確認した方法を備考欄に記載すること。例)管内図で確認、所管課に事前協議、対象規模要件外 など

みんなで、適切な賃金水準を確保！ 社会保険等への加入を徹底！

まじめに働く職人が報われるために



【現状と課題】

- ◆ 近年、建設投資の大幅な減少に伴う競争激化のしわ寄せが、労働者の賃金低下をもたらし、若年入職者が大きく減少
- ◆ 今、適切な対策を講じなければ、将来の建設産業の存続が危惧される状況

適切な賃金水準の確保や社会保険等への加入徹底により、就労環境を改善し、若年者の入職が進むような職場とする必要があります。

- ◆ 適切な賃金水準の確保、社会保険等への加入徹底の観点から、本県では公共工事設計労務単価を平成25年4月に11.5%、平成26年2月には6.6%、平成27年2月には4.1%、平成28年2月には3.6%、平成29年3月には3.2%、平成30年3月には3.1%、平成31年3月には1.4%、令和2年3月には2.5%、令和3年3月には0.8%、令和4年3月には2.8%、令和5年3月には4.4%、令和6年3月には6.4%引き上げ、平成24年度に比べ約63.2%の上昇となりました。

技能労働者への適切な水準の賃金支払

- 適切な価格での下請契約を締結しましょう
- 技能労働者への適切な水準の賃金支払を元請から下請に要請しましょう
- 雇用する技能労働者の賃金水準を引き上げましょう

社会保険等への加入徹底

- 法定福利費相当額(労働者負担分及び事業主負担分)を適切に含んだ下請契約を締結しましょう
- 労働者に法定福利費相当額を適切に含んだ賃金を支払い、社会保険に加入させましょう

元請による下請への指導 (社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン)

- 周知啓発や加入状況の定期把握、加入指導(2次以下を含む。)
- 未加入企業を下請企業に選定しない取扱いとすべき
- 新規入場者の受け入れに際し、適切な保険に加入させるよう下請企業を指導。加入が確認できない作業員の現場入場を認めない取扱いとすべき

☺ 社会保険適用除外者(従業員が4人以下の個人事業主や一人親方)や適切な保険に加入している作業員に対して、誤って社会保険等の加入を強制することのないように注意が必要

請負契約における法定福利費の確保 (標準見積書の活用)

- 元請 ➢ 発注者に対し法定福利費を含む金額による契約締結を求めましょう
- 元請 ➢ 専門工事業者に法定福利費が内訳明示された見積書の提示を求めるとともに、提示された場合、これを尊重しましょう
- 下請 ➢ 法定福利費が内訳明示された見積書を活用等して、元請に見積提出しましょう



公共工事設計労務単価（主要 10 職種）変動率

鳥取県の公共工事設計労務単価は、全職種平均で平成 25 年に 11.5%、平成 26 年 2 月に 6.6%、平成 27 年 2 月に 4.1%、平成 28 年 2 月に 3.6%、平成 29 年 3 月に 3.2%、平成 30 年 3 月に 3.1%、平成 31 年 3 月に 1.4%、令和 2 年 3 月に 2.5%、令和 3 年 3 月に 0.8%、令和 4 年 3 月に 2.8%、令和 5 年 3 月に 4.4%、令和 6 年 3 月に 6.4% 引き上げられ、平成 24 年度に比べ約 63.2% の上昇となりました。主要 10 職種の引き上げ率は下表のとおりです。

職種	単価 (円)													上昇率
	H24.4	対H24.4比	対H25.4比	対H26.2比	対H27.2比	対H28.2比	対H29.3比	対H30.3比	対H31.3比	対R2.3比	対R3.3比	対R4.3比	対R5.3比	
	H25.4	H26.2	H27.2	H28.2	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3		
特殊作業員	13,800	10.9%	3.9%	1.3%	5.6%	0.0%	2.9%	4.0%	1.6%	0.5%	5.4%	2.0%	8.0%	56.5%
普通作業員	10,800	11.1%	4.2%	1.6%	8.7%	0.0%	2.9%	4.2%	1.4%	0.0%	3.3%	3.2%	5.0%	55.6%
軽作業員	9,500	14.7%	3.7%	0.9%	6.1%	0.0%	3.3%	4.0%	1.5%	0.0%	0.0%	6.1%	8.6%	60.0%
とび工	15,000	12.0%	7.1%	5.0%	5.3%	3.0%	3.4%	0.5%	2.3%	0.0%	5.0%	1.7%	3.4%	60.7%
鉄筋工	14,900	12.1%	7.2%	5.0%	5.3%	2.5%	3.0%	0.5%	2.4%	0.0%	0.0%	0.9%	17.1%	70.5%
運転手(特殊)	12,900	10.9%	3.5%	1.4%	5.3%	0.0%	3.2%	4.3%	1.8%	0.0%	4.0%	2.2%	7.6%	53.5%
運転手(一般)	11,100	10.8%	4.9%	1.6%	6.1%	0.0%	2.9%	4.2%	1.3%	2.6%	5.2%	2.5%	8.4%	63.1%
型わく工	14,600	12.3%	7.3%	5.1%	5.4%	2.6%	3.0%	0.5%	2.4%	2.8%	0.0%	6.4%	5.2%	67.1%
大工	14,900	12.1%	7.2%	5.0%	5.3%	2.5%	3.0%	0.5%	2.4%	0.0%	0.0%	5.6%	3.5%	57.7%
左官	14,200	12.0%	7.5%	5.3%	5.6%	2.6%	3.1%	0.5%	2.0%	0.0%	0.0%	4.9%	3.7%	57.7%

【公共工事設計労務単価とは？】

- 公共工事の予定価格の算出に用いる積算用の単価で、作業員やとび工など技能労働者 5.1 職種について定めています。
- 各職種の通常の作業条件及び作業内容の労働（所定時間内）に対する単価で、時間外等の割増賃金や作業内容を超えた特殊な労働に対する賃金は含まれていません。
- 労務単価の内訳は次のとおりです。

労務単価 = 1. 基本給相当額 + 2. 基準内手当 + 3. 臨時の給与 + 4. 実物給与

1. 基本給相当額 基本給（法定福利費本人負担相当額を含む。）及び出来高給
2. 基準内手当 家族手当、通勤手当、住宅手当、技能手当など
3. 臨時の給与 賞与（ボーナス）など
4. 実物給与 通勤定期や食事の支給など

注：法定福利費事業主負担分は、現場管理費に計上されています（労務単価には、法定福利費事業主負担分は含まれていません。）。

- 新しい労務単価は、労務費調査により賃金の支払い実態を把握し、その結果を基に決定します。よって、**労務単価が適切な水準に維持されるためには、末端の下請企業の技能労働者に至るまで持続可能性を確保できる水準の賃金が適切に支払われることが重要となります。**

【例】普通作業員（16,800 円/日、20 日/月勤務）の場合

月当たり 16,800(円/日)×20(日)=336,000 円となり、これは上記枠内の 1.～4. により算定した年収（4,032 千円）を 12 ヶ月で除したものに相当し、法定福利費（雇用保険、医療保険及び年金保険）の本人負担相当額（約 15%）が含まれています。

鳥取県県土整備部県土総務課

公共工事設計労務単価と法定福利費

－ 適正な金額での下請契約のために －

公共工事設計に計上されている各工種の労務費及び諸経費（現場管理費）には、法定福利費が含まれています。下請契約にあたっては、法定福利費相当額（労働者負担分及び事業主負担分）を適切に含んだ金額で締結してください。

また、労働者に法定福利費相当額を含んだ賃金を支払い、社会保険等への加入を徹底しましょう。

なお、法定福利費相当額（労働者負担分及び事業主負担分）の算出にあたっては、下記を参考にしてください。

代表的な専門工種の労務に係る法定福利費相当額の算定例（R6.3月以降）

■標準単価（公共工事設計標準歩掛及び労務単価による）

各工種の標準的な積算条件による単価は以下のとおり（直接工事費原価ベース）ですが、詳細な積算条件等は、公表設計書をご覧ください。

工種名	規格	単位	標準単価		
				労務費	器具及び諸雑費
鉄筋工 ※1	D10～D51	t	57,000 円 (100.0%)	55,518 円 (97.4%)	1,482 円 (2.6%)
足場工	手摺先行型 足場	掛㎡	4,143 円 (100.0%)	2,294 円 (55.4%)	1,849 円 (44.6%)
型枠工 ※2	鉄筋・無筋 構造物	㎡	7,705 円 (100.0%)	6,265 円 (81.3%)	1,440 円 (18.7%)

※1 鉄筋工の値は、鉄筋材料費を含まず、また市場単価のため、H4歩掛の構成比率から算定。

※2 型枠工の値は、施工パッケージのため、構成比から法定福利費の対象となる労務費を算定。

詳細な内訳は、下記ホームページを参照してください。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/tekiseishitauke/>

注) 下請金額には、上記の標準単価の他に、運搬費、会社経費等の諸経費の計上が必要です。

■法定福利経費の算出

	①標準単価 (直接工事費原価)	②うち労務費		③事業主負担分 法定福利費 (現場管理費分に計上)
			うち労働者負担分 法定福利費	
鉄筋工	57,000 円/t	55,518 円/t	8,600 円/t	9,049 円/t
足場工	4,143 円/掛㎡	2,294 円/掛㎡	355 円/掛㎡	374 円/掛㎡
型枠工	7,705 円/㎡	6,265 円/㎡	970 円/㎡	1,021 円/㎡

◎労働者負担分の算定式 労務費×154.90÷1,000

◎事業主負担分の算定式 労務費×163.00÷1,000

※R6.3月以降の率

●元請から下請事業主に支払われる部分 ⇒①(単価)＋③(事業主負担分法定福利費)

●下請事業主から下請労働者に支払われる部分 ⇒②(労務費)

※労務費に労働者負担分法定福利費を含む

数量総括表

設計数量総括表

工事名：上砂見地区急傾斜地崩壊対策工事

工種	種別	細別	規格	単位	前回数量	今回数量	摘要
砂防土工							
	掘削工						
		片切掘削	小規模土工	m3		180	
		積込(ルーズ)	小規模土工	m3		180	
	法面整形工						
		法面整形	切土部	m2		120	
	残土処理工						
		小型不整地運搬車運搬(2t)	運搬距離100m	m3		180	仮置場へ
		積込(ルーズ)	土砂	m3		180	
		土砂等運搬	土砂	m3		180	残土処分場へ
		残土処分		m3		180	
法面工							
	植生工						
		植生基材吹付工(枠内吹付)	t=3cm	m2		40	
	法枠工						
		ラス張工		m2		114	
		吹付枠	□500 2500×2500	m		107	
		水切モルタル		m3		5	
	アンカー工						
		アンカー工材料	法枠内	式		1	
		アンカー工材料	法枠外	式		1	
		削孔(アンカー)	二重管方式 呼び径90mm レキ質土	m		98	
		削孔(アンカー)	二重管方式 呼び径90mm 軟岩	m		90	
		削孔(アンカー)	二重管方式 呼び径115mm レキ質土	m		20	
		削孔(アンカー)	二重管方式 呼び径115mm 軟岩	m		18	
		アンカー加工組立・挿入緊張・定着頭部処理	10以内	本		12	
		アンカー加工組立・挿入緊張・定着頭部処理	10越え	本		10	
		半現場打軽量受圧板	2型 2400×2400×400	基		1	
		半現場打軽量受圧板	3型 2900×2900×450	基		2	
		コンクリート打設	高流動コンクリート 24N/mm2	m3		4	
		グラウト注入		m3		2	
		ボーリングマシン移設		回		7	
		足場	単管傾斜足場	式		1	
付属物設置工							
	境界工						
		境界杭		本		5	

設計数量総括表

工事名：上砂見地区急傾斜地崩壊対策工事

工種	種別	細別	規格	単位	前回数量	今回数量	摘要
仮設工							
	仮設土工						
		大型土のう製作・設置	バックホウ据付 購入土 3年対応	式		1	
		敷鉄板設置・撤去	t=22mm 1524mm×3048mm	式		1	
		敷鉄板	t=22mm 1524mm×3048mm	式		1	
		土工用防護柵	I型 H=1.5m	式		1	
	交通管理工						
		交通誘導員B		式		1	
共通仮設							
	運搬費						
		仮設材等運搬	基地積込・取卸, 現場積込・取卸し	式		1	
	準備費						
		立木切倒し 枝払い切揃え、集積	傾斜：30°以上 植生密度：中	式		1	
		立木積込		式		1	
		ダンプトラック運搬	幹	式		1	
		ダンプトラック運搬	枝葉	式		1	
		ダンプトラック運搬	伐根材	式		1	
		売却費	幹	t		12	木屑バイオマス 発電燃料加工施設
		売却費	枝葉	t		3	木屑バイオマス 発電燃料加工施設
		処分費	伐根材	m3		21	再資源化施設
	技術管理費						
		アンカー引抜試験	基本試験	本		1	

圖 面